

インフォデミック=インフォメーション+エピデミック いつの世にもデマは絶えず

多くの人がこのような悪いことが起こるのではないかと心の奥底に抱いていること。その不安を想起させる単語に触れると、その不安な思いを心の中に思いとどめられなくなり、行動に移すことになる。多くの人はその行動をとるようになると、自制心でその行動を止めていた人でも、同じ行動をとるようになる。場合によっては、とらざるを得なくなる。

その典型が買い占めである。日本経済新聞はまだ記憶に新しい「トイレトペーパー」さわぎに触れている。新型コロナウイルス騒ぎの中においても、トイレトペーパーがなくなるとの根拠は全くないのだが、それでも多くの人トイレトペーパーの買いに走り、商店の棚が空になる。空になるから、ますますトイレトペーパーを求めて近くの店舗を探し回る。

日本経済新聞 2020.4.6

インフォデミック		氾濫するデマ、社会に影響
疫病や災害の発生時はデマも広がりやすい		
1923年	関東大震災	外国人が暴徒化したとのデマが広がり、多数が殺害
2003年	重症急性呼吸器症候群(SARS)大流行	中国で都市封鎖に関する偽情報が拡散し、買い占め多発
11年	東日本大震災	各地で「強盗や性犯罪が多発している」とのデマ
16年	熊本地震	「動物園からライオンが脱走」との偽情報が拡散、投稿者を逮捕
18年	台風21号	関西国際空港に利用客が孤立、台湾当局の対応が遅れたとの誤情報が流布
20年	新型コロナウイルス	買い占めや都市封鎖を示唆する多数の偽情報が

▽:歴史的にも大きな自然災害やも詐欺目的のSNS投稿や偽情報サイト開設が相次ぐなど、世界規模で影響が広がっている。中国からの帰国者が感染しているとの偽ニュースが流れ、一部で暴動が起きたとされる。ウイルス感染被害の拡大同様、世界中の政府や当局が対応に頭を悩ませている。

▽:ネットなどで噂やデマも含めて大量の情報が氾濫し、現実社会に影響を及ぼす現象を指す。「情報(Information)」などの報(Information)と、感染症の広がり(エピデミック)を組み合わせた造語だ。世界保健機関(WHO)が2月、新型コロナウイルスの感染拡大とともに世界に警戒を呼びかけた。

▽:コロナ禍を巡っては、米国でも詐欺目的のSNS投稿や偽情報サイト開設が相次ぐなど、世界規模で影響が広がっている。中国からの帰国者が感染しているとの偽ニュースが流れ、一部で暴動が起きたとされる。ウイルス感染被害の拡大同様、世界中の政府や当局が対応に頭を悩ませている。

▽:ネットなどで噂やデマも含めて大量の情報が氾濫し、現実社会に影響を及ぼす現象を指す。「情報(Information)」などの報(Information)と、感染症の広がり(エピデミック)を組み合わせた造語だ。世界保健機関(WHO)が2月、新型コロナウイルスの感染拡大とともに世界に警戒を呼びかけた。

▽:コロナ禍を巡っては、米国でも詐欺目的のSNS投稿や偽情報サイト開設が相次ぐなど、世界規模で影響が広がっている。中国からの帰国者が感染しているとの偽ニュースが流れ、一部で暴動が起きたとされる。ウイルス感染被害の拡大同様、世界中の政府や当局が対応に頭を悩ませている。

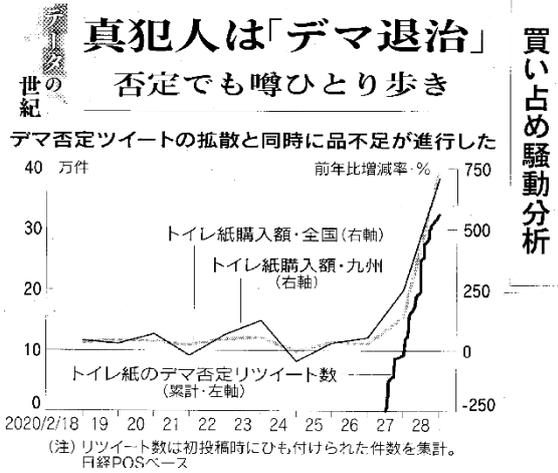
後から考えると、非常に滑稽であるかもしれないが、それがインフォデミック、一種のパニックである。名前の由来となっているのがエピデミック。パンデミックではない。これは、このような現象に限られた地域、たとえば国の単位などで起こることを表している。情報通信の発展とともに、今後ともインフォデミックが起こる頻度は増大してくるものと思う。

生活者には情報を読み解く力が求められる。たとえば、トイレトペーパーが本当に不足するかについては、次のブログに示すように、そのような理由は存在しない。

なぜトイレトペーパーがまだ市場に出てこないのか？ 原料は有り余る古紙 3月7日

<http://www.alchemist.jp/Blog/200307.pdf>

まるでオイルショック、新型コロナによる「買い占め」はトイレ紙にも
 日経ビジネス記者 2020年2月28日
 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、マスク不足が問題になる中、「買い占め」問題はトイレットペーパーやティッシュなどの紙製品にも広がってきた。



2月末、全国の店頭からトイレットペーパーが一斉に消えた。買い占めはなぜ起きたのか。東京大学とデータ分析会社ホットリンク、日本経済新聞の共同分析で、意外な犯人像が浮かんできた。

不安かき立てる
 「中国から輸入できず、品切れになる」。ネット上でいまも騒動の「主犯」と批判されるのが、2月27日午前、全国の店頭から流れた1本のデマ投稿だ。だが「トイレットペーパー」の単語を含む全投稿を調べると、このデマのリツイート(転載)は1件のみでほとんど拡散していなかった。

朝目が変わったのは数時間後だ。「大半が国産だよ」「落ち着いて」。善意の「デマ退治」投稿が次々と広がり、ツイッターの話題上位に入る。その

感染拡大が続く新型コロナウイルスは「データの世紀」に入った人類が初めて経験するパンデミック(世界的流行)だ。直接の感染被害だけではない。デマ拡散による差別や買い占め、人工知能(AI)の誤作動が生む株価の乱高下など、データが2次被害を増幅する。世界は「情報パンデミック」に翻弄される。

(ツイッター分析の詳細を5面に)

善意の投稿 人類翻弄

コロナ情報拡散力、SARSの68倍

情報が拡散する力はSNSの登場で飛躍的に高まった

新型コロナウイルス
 =米国立衛生研究所・ロイター

149万9177

情報伝達力

1	25万1924	17万1418
1918~20年	2003年	2009年
スペイン風邪	SARS	新型インフルエンザ
		2020年
		新型コロナウイルス

新聞や電話の普及
 ラジオ・テレビの普及
 インターネットの普及
 スマホの普及
SNSの普及

(試算方法)
 メディアの普及率と人口、1度に情報を送れる平均人数、1人が1日に受け取る情報量を掛け合わせて「情報伝達力」を算出。スペイン風邪の流行時を「1」として比べた。現在のOECD36カ国が対象

入荷しませんが、「うちも聞いてくれない」「うちの近くはまだあった」翌28日までの2日間でデマ否定のリツイートは累計32万件に及んだ。一般に数千件の転載が流行

入りの目安とされるが、その数十倍だ。ニュースサイトなどにも広がり、全国規模の騒動に発展していく。偽情報を打ち消す各個人の投稿が逆に品不足を連想させたのだ。「親切心からSNS(交流サイト)で状況を知らせたい人が相次いだ

噂や否定も含めて情報の氾濫が人々を不安にさせた。ホットリンクの神剛史部長はみる。SARS流行時は1対1の伝達が基本のメールが主流だった。SNSは瞬時に1対多の交流を可能にする。